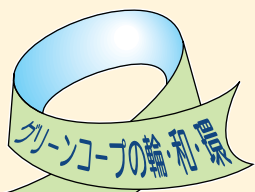




共生の時代

'10
7月

●発行:グリーンコープ共同体育理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



中国地方で難病の子どもたちを応援している

の づか やすし
篠塚 靖 さん

1962年島根県出雲市生まれ。外資系生命保険会社勤務のかたわらボランティアで、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン広島支部支部長。妻はグリーンコープ生協ひろしま組合員。長女(中3)、二女(小4)の4人暮らし

プロフィール

18年前、出張先の東京で「活動資金の一助にしたいから」と自作の本を売っていたスーザン・アルブライトさんと出会う。スーザンさんは、アメリカで理学療法士をしていた時に闘病生活の中でも夢を持つ子どもの瞳の輝きに心を打たれ、沖縄の魔よけのシーサーが男の子の夢を叶えるという童話「不思議なシーサー」を出版。日本でもメイク・ア・ウィッシュ(以下、MAW)の活動を広げようとしていた。MAWは「願いごとをする」という意味で、「難病の子どもの夢を叶えること」を目的とした国際的なボランティア団体。篠塚さんは1冊購入し、「夢を持つことが病气と闘う希望になっていくんだ」と感銘を受け、会の一員となった。

1996年、中国地方にMAWの支部がなかった頃、そのきっかけづくりに奔走

東京のMAWに出雲市に住む進行性の脳の病气と闘う少年から、「バスの運転士になりたい」という夢が寄せられた。篠塚さんは出雲市のバス会社から「社員と同じ名札を作ろう。記念切符もバス停も」と次々に提案が出された。周りの人に抱きかかえられ、制服を着て運転席に座った少年のバスは、敷地内をゆっくり走った。多くの人の気持ちがつながり、ひとつになって男の子の夢が実現した。その瞬間、たぐさんの勇氣と希望をみんながつかんだ気がした。「力になりたいと思っていた私たちの方が少年から力をももらいました。誰もが人の役に立ちたい気持ちを持つていない。ただきっかけが見えなければ人は大きな力を発揮できます」。篠塚さんは、そのきっかけづくりに奔走

MAW主催のチャリティ駅伝やコンサートに、いつも家族で参加する。MAWの活動について詳しく説明したことはないが、他のボランティアの給水所で飲み物を配ったり、さまざまな役割を分担しながら同じ時を過ごす。「どんな子どももみな同じようにこれからの時代をつくり、社会を担っていく。多くの人と手をつなぎ心を合わせ、小さなことからでもいいから社会の役に立つことを考えられる人になってほしい」と願って止まない。

「寄付のつもり」で買った本は、篠塚家の二人の子どもたちに読み継がれ今も本棚に並ぶ。きっかけの偶然性と、人との出会いの大切さをかみしめるように、篠塚さんは懐かしそうな笑顔でページをめくった。

みんな誰かの役に立ちたいと思っている

シャボン玉月間

みんなでせっけん生活を!



今年度のシャボン玉月間統一ポスターの標語にグリーンコープ生協ふくおか筑紫支部の中田恭子さんの「“せっけんっていいな♡”地球のキモチ」が選ばれました。

67面に関連記事

Contents

ホームレス問題を考える	16
5月18日、抱樸館福岡ははじめての入居者を迎えました	2
うちのメーカー・うちの生産者®	
枕崎市漁業協同組合 かつおのたたき	3
食パン用の小麦が7月から代替小麦粉に これからもめ食パンを利用していきましょう	4
グリーンコープのこだわり再発見!	
仕分け袋のリサイクルがはじまりました 一広がる環境への取り組み	5
7月はシャボン玉月間	
人にも環境にもやさしいのはやっぱりせっけん!	6・7
グリーンコープ共同体第四期通常総会 グリーンコープ連合第十八期通常総会	
グリーンコープは懸命な自己改革で未来に備え、 協同と連帯の力で豊かな地域づくりをすすめていきます	8・9
特別決議	
口蹄疫による危機に対し、 多くの人で助けあって乗り越えていきましょう!	10
「産直」「商品」学習会	
グリーンコープ商品の「安心」「安全」を実感し 利用普及をすすめましょう!	11

グリーンコープの組合員になって20年、活動組合員になって12年が過ぎた。いろいろな商品のことを知ることができた。あちこちの産地へ行き、たくさんの方と生産者の方と出会い、自然と共に在る農畜産業のご苦労や喜びを知った。工場見学も何度も参加し、メーカーの方の商品へのこだわりと自信を伺った。多くの出会いや体験を通しての感動の一つひとつが私の「お気に入り商品」となってきた。だから最近「お気に入り商品」をひとつと尋ねられる

送 信

機会が増え、本当に悩む。私の二人の娘は、生まれる前からグリーンコープで育ってきた。先日、上の娘に「お気に入り商品の品は何?」ときいてみた。一瞬ポカンとなったが、「全部!」一つは選べない。お気に入りにはグリーンコープという答え。なるほど! 私の活動と共に育ち「大人になったらお母さんと一緒に活動する!」と宣言した娘は着実にすすんでいるようだ。グリーンコープ生協ふくおか副理事長 園田 由紀子



オリエンテーションのようす



入居者を迎える居室

「抱樸館」は仕事、住まい、人との絆を失った人々の自立を支援する施設です。たくさんの人々の祝福を受け、5月1日に開所式を終え、スタッフは一丸となって入居者を受け入れる準備をすすめてきました。そして5月18日、はじめての入居者を迎えました。その1日のようす取材しました。

ホームレス問題を考える 16

5月18日、抱樸館福岡ははじめての入居者を迎えました

抱 樸 館 の 一 日	
6:00	起床
7:00~7:45	朝食
8:00~8:30	清掃プログラム ※1
	出勤・求職活動・通院など個別プログラム
12:00~12:45	昼食
14:00~15:00	自立支援プログラム ※2
16:00~17:00	各種セミナー ※3
18:00~18:45	夕食
19:00~22:00	入浴
22:00	消灯

※1当番制による館内・地域清掃
※2音楽セッションや体操プログラムなど
※3債務整理の基礎知識や生活習慣病セミナーなど



全員で食事

当日の入居予定者は11人。朝9時からのスタッフミーティングでは「入居される方にも、自分たちスタッフにも今日は新しい人生のはじまりの日」「入居者は疲れてここに来られるから、ほっとしていただけるように十分に配慮しよう」などを申しあわせて、記念すべき一日はスタート。徒歩や自転車、あるいはスタッフが迎えに行き、三々五々と入居者が到着。出迎えるスタッフの挨拶は「ようこそ抱樸館へ!」。再出発の門出を祝う。

居室や施設の案内を終えると昼まで入浴・自由時間。真新しい浴室に向かう人、洗濯をはじめの人、談話室のテレビをつけて「おっ、デジタルだ」と見る人、「お父さんはどこから来たの?」と雑談をはじめの人、居室で寝入ってしまう人、それぞれの時を過ごした。昼食はスタッフも一緒にテーブルを囲む。この日のメインメニューは厨房スタッフの心を込めて手作りしたポテトコロッケ。新鮮な野菜も添えられている。ふつと炊き上げられたご飯に「お代わり」が続出し、見守るスタッフも嬉しそうだ。一段と和やかな空気が流れる。

再会の決意を固める 午後からのオリエンテーションでは青木館長より自立のためのプログラム、抱樸館福岡での暮らし方の説明があった。スタッフはまず入居時の生活保護申請を手伝い、生活の基盤を整える。その後病を抱えている人は病院にかかる。健康を回復して後、職業訓練などで就労の準備をする。就労し一定の給料が得られるようになると抱樸館を出て地域のアパートなどに移る。その際の保証人の提供や家財の支援もする。また障がいを抱える人、高齢で働けない人には手帳の申請や介護申請などの支援もする。自立を果たした後も入居者一人ひとりの人生に最後まで伴走する。抱樸館の一日のタイムスケジュールは別表のとおり。入居期間中は館内でも館外でも飲酒は禁止。小額の小遣いを除いて、現金・カード類は事務局で預かり、自立の時に備えてできるだけ貯金する。最長6カ月の入居期間で自立するためには、規則正しい生活を取り戻し、抱えているさまざまな困難を解決していくことが必須となる。

青木館長は、いく分緊張気味の入居者に「ボランテニアの理容師はただ今募集中です。丸刈りなら僕ができます! 弁護士による無料の法律相談も準備します」など、できることはなんでもするという姿勢を伝える。皆に安堵の表情が浮かぶ。抱樸館福岡との契約書作成ではこれまでを振り返って履歴を記入する。現住所欄はこれからふるさともなる抱樸館福岡の所番地。そして最後に押印。再起の覚悟を決めた厳肅な瞬間。困った時は抱樸館へ

「抱樸館」名前の由来 老子の「素を見し樸を抱き」からとられた。「樸」は原木の意。「抱樸」とは、原木・荒木を抱きとめることだ。傷つき疲れた「樸」が、抱かれ受け止められた時、「樸」は再起する力を得て、明日の自分を夢見ることができる…。



四辻さん(左)と川上さん(右)

困窮と孤立に長く苦しんできた人に、それを気遣って準備される食事は、心と身体を温かく満たすものとなる。その温もりを大切にしたいと抱樸館福岡の食事作りは館内の厨房で手作りされる。厨房スタッフは現在3人。主任はグリーンコープ生協ふくおか組合員四辻由美さんだ。これまで在宅福祉ワーカーズ「ぱれつと」に関わってきた。「私と福祉の関わりは1994年、グリーンコープの地域福祉政策が定まったときのことでした。プランはできたが、する人がいない。じゃ私かと、思わず手を挙げていました。以降、グリーンコープの地域福祉の現場で活動し、介護福祉士の資格もとった。福祉が性に合っていた。昨年、思いがけず抱樸館福岡の厨房スタッフにという声がかかった。その時、グリーンコープの福祉の理念はここに繋がっていたのだと思ったという。59歳

スタッフ紹介 厨房主任 四辻由美さん 普通の家をここに作りたい

になる今、ここは最後の働く場所となるだろう、全力で関わろうと決めた。入居日に備えて、まず職員の昼食を作るところから仕事を始めたところ、10日ほどして、開所を伝え聞いたのか毎日のように生活に困った人が訪れた。「そんな時、とりあえずは『食べもの』なんです。スタッフの相談員から『何かないですか?』と言われて困らないようおにぎりを作って冷凍しておくことにしました。」 若い頃、妹と2人で大手企業の社員食堂の実務を請け負っていたことがある。大人数の食事を用意することには少し慣れている。今回も息が合った妹、川上英美さんが副主任を引き受けてくれた。心強い。厨房の運営も託されている。「マニュアルは一切ないんです。満室になると約100人が同時に食事をとることになるので、どんな手順で用意すればいいのか。また、どんなメニューを準備すればいいのか。…。ついつい考え込むという。『ここを普通の家の台所のようにしたいですね。心がほっとするような。例えば、『明日のおかず何?』とか『〇〇が食べたいな』とか入居者に言ってもらえるようなところになると嬉しい。』」

そして、少し落ち着いたら、やがて自立していく日のために、簡単な調理の仕方教えたいという。入居者のことを思う眼差しは、まちがいないお母さんのものだった。

うちのメーカー

98
鹿児島県枕崎市
枕崎市漁業
協同組合

うちの生産者



かつおのたたき



豪快な一本釣り漁法

かつおのたたきのできるまで



① 1回の航海は約2ヵ月、約30人が乗船する。かつおは生きたまま、生組のカタクチイワシを枕崎から積んでいく。



② 魚場では、レーダーなどの最新機器でかつおの群れを見つけて、フアイバー製の竿で1匹ずつかつおを釣る。船には大型の瞬間冷凍設備が搭載され、漁獲したかつおはマイナス20℃で徐々に冷凍され、マイナス30℃で保管、鮮度を閉じ込める。



③ 水揚げされたかつおはすぐに枕崎市漁協のマイナス30℃の大型冷凍庫に保管される。発注に応じ、加工場に運ばれる。

④ 凍ったままカットし整形する。



⑤ 炭火で焼き上げる。⑥ 焼き上げたかつおは3～5秒後には真空処理され、マイナス30℃で急速凍結される。

⑦ 焼品・包装後は、再びマイナス50℃で超低温保管され、出荷を待つ。

枕

崎は日本の中でも有数のかつお水揚げ港だ。鹿児島県薩摩半島西部に位置し、温暖な気候と自然環境に恵まれ、江戸時代よりかつおの一本釣り漁業が盛んで「かつおの町」として発展してきた。明治時代後半までは、主にかつお節の原料を獲るために、南西諸島（沖縄近海）の豊かな漁場に帆船で漁に出ていた。その後、動力船に変わり、冷凍技術などもすすみ、生食用としての漁獲が増え、漁場も近海から南方海域へと拡がった。

現在では枕崎のかつお船は遠く赤道付近、インドネシア沖やマレーシア諸島付近の南洋に、毎年10月から5月の間漁に出る。約500トンの船5隻（うち2隻が枕崎市漁協保有）が、年に3回ずつ出港し、かつおを獲る。枕崎に水揚げされるかつおは、1年分のかつおのたたきや刺身となる。

グリーンコープと出会う

グリーンコープと枕崎市漁協の取引のはじまりは20年以上前。新鮮なかつおは

組合員が望んだものだった。海の資源と人とが共生していくという方針が同じだった。

枕崎には水産高校があり、高校生の実習船が漁獲したまぐろを枕崎に水揚げできるようにになった。2007年からグリーンコープはそのまぐろを取り扱い、日本の漁業を応援している。しかし、卒業生が地元の産業であるかつお船に就職を決めるのは2年に1人くらいだそう。その時は町をあげてのお祝いになるんですよ」と語る安藤さんの表情が緩む。

海の資源を守る

一本釣り漁法

一本釣りで獲るかつおは魚体の傷みが少なく、生食用に適している。一定の大きさの魚しか獲らず、1回の漁獲量は少ないが、釣りが上げられたまま凍結するため品質・鮮度が抜群によい。



安藤 昭人 さん

かつお独特の臭みも少なくなる。一方、大型船の巻き網漁で獲るかつおは魚体の品質にバラつきがあり、かつお節などの加工用となる。しかし、最近では生食用として安価に市場に出回っているという。一本釣りは海を大事にしなが、人の生業も成り立たせて共生する方法と言える。

国内産の樫の炭にこだわる

枕崎市漁協加工場ではかつおをたたきにする時、炭火を使う。炭がたたきの仕上がり大きく左右する。そこで使っている炭は鹿児島県産を中心とした国内産。樫などの硬い炭で1000℃以上の高温で、短時間で一気にかつおを焼きあげる。炭火独特の焼き目と香りが特長だ。「中国産の炭は安価ですが、火力に勢いがなく、すぐ燃え尽き効率的ではないんです。やはり昔からある国産ものが一番ですね」と安藤さんは言う。とは言え、炭の生産者も高齢化がすすみ、今確保できているのも長い間の取引があるからだ。一つひとつの工

程に一手間かけることが味のよさをつくる。

「ぶえん鯉」に挑戦

一本釣りのかつお船は現在では日本全体でも28隻（2007年現在）しかない。4年前の原油高騰のあおりを受けて38隻あった船は激減した。かつて枕崎でかつお漁が盛んだった時代、「若い後継ぎが船に乗れば、数年で家が建つ」と言われるほどの収入があった。今では平均的サラリーマンの年収を超えることはない。船への高額の資金投資は敬遠され、後継者の確保も難しい状況だという。こうした厳しい現状を乗り越え、枕崎の漁業を後世に繋いでいくために登場したのが「ぶえん鯉」だ。漁獲したかつおを船上で活きじめにし、凍結することで、鮮度アップを図った。枕崎市漁協が有する2隻にこの大型の瞬間冷凍設備が整備されている。名称も市民の公募によって決まった。「ぶえん」とは「無塩」がなまった言葉。昔、冷凍技術がない頃はほとんどの魚が塩

漬けて流通されていたため、「ぶえん」は地元では新鮮な魚の代名詞。船上活きじめの遠洋かつお船は今でも枕崎以外では1隻しかなく、「ぶえん鯉」という呼称が使えるのは枕崎だけだ。鮮度をアピールした「ぶえん鯉」は5年前からグリーンコープでも取り扱っている。色合いも鮮やかで身の歯ごたえもよく、臭みが少ないと好評だ。

漁業に携わる人々の日々の努力と工夫によって私たちの届く海の幸が豊かになっている。枕崎市漁協の「かつおのたたき」「ぶえん鯉」には海の資源を大切に感謝していただくこの意味が込められている。

※船で釣り上げた魚をすぐに血抜きし酸化する。新鮮を保つ方法で、近海のかつお漁では一般的だが、遠洋漁業のかつお漁ではそれまではなかった。



ぶえん鯉盛付例

食パン用の小麦が7月から代替小麦粉に これからもめ食パンを利用していきましよう

グリーンコープは設立当初から、安心・安全でおいしいパンを追求してきました。2007年には、食パンの原料小麦の品種が北海道産春蒔き小麦「春よ恋」100%になり、2009年春には食パンがリニューアルされ、さらにおいしくなりました。

2009年、国産小麦は天候不順などで全国的に前年度の6～7割という不作で、中でも「春よ恋」は3年連続で前年を割る不作が続いています。

2009年度産の在庫がなくなり、やむを得ず、他の品種の国産小麦粉にグルテンを加えて食パンを作るという判断をしました。カタログGREEN 15号（7月4日配達週）から、今年いっぱい、代替小麦粉での供給になります。

2008年8月 美瑛を訪問した組合員。
大型コンバインの前で



8月、小麦収穫直前の美瑛町の麦畑

**国産小麦粉を
使った
安心・安全な
パン作り**

1980年代半ば、輸入穀物の残留農薬問題が浮上し、食の安全を求める意識が消費者の間に広まりました。主食として食べられるようになってきたパンの原料の輸入小麦粉も問題になりました。安心・安全な国産小麦粉でパンが作れないか、グリーンコープの前身生協でも検討がはじまりました。

国内の小麦の生産者と 出会う

小麦粉を使ったパンは一般的になりましたが、当時は「国産小麦でパンは作れない」が常識でした。理由は、グルテンの量が少ないこと。そのため膨らみにくく、ふっくらしたパンが作れませんでした。

国産小麦粉のパン作りのためには、その小麦を作ってくれる生産者の協力を得ることが必要でした。「国産小麦粉で作った安心・安全なパンが食べたい」「パン用の小麦の増産をしてほしい」という思いを届けに、1993年には北海道美瑛町の小麦生産者を訪ねました。

小麦の品種改良などに取り組みました。以来、ずっと交流が続いています。2000年には、小麦は政府による管理から外れ、自由な取引が可能になりました。「ハルヒカリ」「ハルユタカ」を経て、2002年、産地では、パンに適した「春よ恋」という品種の開発にもたどり着きました。

製粉会社・パンメーカーの 試行錯誤の積み重ね

一方、製粉会社や食パンメーカーでも、技術や経験を積み重ねてきました。2004年から「春よ恋」の小麦粉をブレンドできるよ

うになり、2007年には100%の配合にしました。その結果、「モチモチの食感と小麦の風味がおいしい」食パンを作ることができました。その間、グリーンコープの8社のパンメーカーの間で技術交流やノウハウの共有など、「安心・安全でおいしいパン」をめざして、一つひとつの課題が乗り越えられてきました。

2008年度食パンの リニューアルに取り組む

徐々に組合員の支持を得て、食パン利用が増えてきました。2008年、10年後20年後も多くの組合員に愛されるグリーンコープを代表する商品にするために、グリーンコープ20周年を記念して、グリーンコープ生協くまもとが食パンのリニューアルに取り組みました。

「国産小麦の特長を生かした風味と食感、添加物をできるだけ使わない食パン」を追求し、検討を深めてきました。「製粉方法の変更、イースト・ショートニングの変更」によって、「モチモチした食感の、より風味豊かな食パン」が実現しました。リニューアルでよりおいしくなった食パンは2009年4月から供給がはじまり、多くの組合員に利用され、グリーンコープを代表する大切なこだわり商品になりました。



**国産小麦は
不作続きで
食パン用の
小麦粉が不足**

「春よ恋」は、食パン作りに適した小麦です。吸水性がよく、たんばく質の質もよく、パン作りに不可欠なグルテンも形成されやすいので、しっかりした生地ができます。成育についてはデリケートな品種ですが、生産量は安定してきたと言われています。

しかし、北海道で春に種を蒔いて、秋に収穫する「春よ恋」は、このところの異常気象で3年連続不作が続き、毎年前年度の収量を下回っています。なんとか確保できないか、手を尽くしてきましたが、2010年度産が出荷されるまで不足することになりました。

2010年7月から 代替小麦粉

代替小麦の品種は、国産のきたほなみ、ニシノカオリ、ホクシンの3種類です。そのままでは食パンの原料としてはグルテンが少ないため、オーストラリア産の

グルテンを4%添加して使うことにします。これによってグリーンコープの食パンは、「国産小麦粉のパン」と表示できなくなります。96%が国産小麦粉を成分としたパンです。

8社のパンメーカーでは技術力を総動員して、試行錯誤を重ねこれまでの食パンに負けない「安心・安全でおいしい食パン」を作りました。若干、食感や風味が変わりますが、グリーンコープ共同商品検討委員会でも、おいしい食パンにしようという検討を重ねてきました。

国産小麦のパンの供給がはじまって以来、これまでに2回外国産のグルテンを添加したことがありました。1992年、「ハルユタカ」の不作により別の品種の国産小麦を配合した際と、1998年から2002年にかけてグルテン量の調整のために必要と判断した際でした。その時々状況の中で、できるだけ安心・安全でおいしいパンを追求してきました。

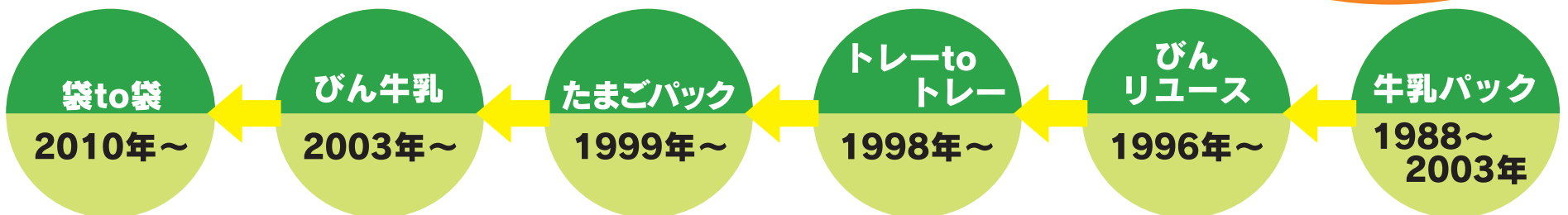
2010年7月から、今年いっぱい、代替小麦粉で作った食パンを供給する予定です。その利用を続けていくことが、来年から再び「春よ恋」100%の小麦粉で作った食パンの供給へとつながっていきます。2010年度産春蒔き小麦の収穫を待ちながら、代替小麦の食パンを利用していきましよう。代替小麦粉をおいしく食べるためのパンの開発も併せて検討、人參のピューレを練り込んだ食パン（キャラットブレッド）などがカタログに登場する予定です。

仕分け袋のリサイクルが はじまりました



袋 to 袋

— 広がる環境への取り組み —



「みどりの地球をみどりのままで子どもたちに手渡したい」というお母さんたちの願いは、グリーンコープの食べもの運動、そして環境を守る取り組みに貫かれています。商品の容器・包材の問題も、グリーンコープは「自然」「生命」を守るという視点で、できることに精一杯取り組んでまいりました。配達時に商品が入っている仕分け袋のリサイクルが6月28日からスタートしました。グリーンコープはさらに循環型社会へ向けて、大きく歩をすすめていくことになります。

「使い捨て時代」の見直し、まず牛乳パックの回収から

びん容器は、安心と安全とおいしさを満たす

安全を何より優先したプラスチックリサイクル

1970年代半ば、日本は大量生産・大量消費・大量廃棄時代を迎えました。そうした社会構造は公害、大規模な森林伐採などにより環境を激変させ、「使い捨て」の便利な生活から出されたごみは街に溢れました。

牛乳びん、ビールびん、しょうゆや酒が入った一升びんは、かつてあたりまえにリユースされていました。

プラスチック製品は石油(ナフサ)から作られます。石油が限りある資源である以上、プラスチックも有限です。グリーンコープは設立当初から、できれば回収・再利用したいと願っていました。しかし当時はプラスチックを再生する技術を持つところがなく、使用するプラスチックの量をできるだけ少なくする「総量規制」を行っていました。

グリーンコープは設立当初からその状況を課題と捉えてきました。まず良質の針葉樹が原料となる牛乳パックについては、回収して、それをトレットペーパーやティッシュなどの商品に再生させ利用してきました。

1996年、グリーンコープは他の生協と共同してびん容器について、トータルなリユースシステムを構築しました。また2003年からは牛乳の容器もびんになりました。現在、回収状況は牛乳びん約99%、それ以外のリユースびんは平均して60%台の高い回収率

1998年に浮上した環境ホルモン問題は、そうした状況を一変させました。当時グリーンコープはPP(ポリプロピレン)を材料とするトレイを使用していました。トレイのリサイクルに向け検討を開始。リサイクルしやすいポリスチレンを材質としたトレイを選択し、一部で実験展開をして

（現在も牛乳パックの回収は自治体などで行われており、グリーンコープは再生原料を使用したトレットペーパーやティッシュを取り扱っています）

仕分け袋は、カタログとともに回収の要望が組合員から根強く出されていきました。そのリサイクルに向けての調査がグリーンコープ内ではじまったのは2007年。「容器包装リサイクル法の改正(2006年6月)」を受けて、レジ袋などの再生プラントを設置する業者があらわれ、リサイクルに踏み出す環境が整ったと判断しました。

仕分け袋は、カタログとともに回収の要望が組合員から根強く出されていきました。そのリサイクルに向けての調査がグリーンコープ内ではじまったのは2007年。「容器包装リサイクル法の改正(2006年6月)」を受けて、レジ袋などの再生プラントを設置する業者があらわれ、リサイクルに踏み出す環境が整ったと判断しました。

「袋 to 袋」をさらに循環型社会をめざす

仕分け袋のリサイクル。実はトレイのリサイクル以上に難しい点があります。仕分け袋は十数ミクロンという薄さのため、ラベルやラベルの接着剤などの異物が混入すると強度が落ち、製袋工程で袋が破れることも想定されます。延々と切れ目なく袋を製造していく時に袋が破れると、ラインは一旦完全に止まります。異物混入は致命的なのです。ラベルを完全に切り取る、裏返してごみを落とすなどの一手間がリサイクル成功にはとても重要になります。

4R運動でめざす環境型社会

リフュース【断る】

Refuse

unnecessaryなものを買わない、もらわない、断るという考え。過剰包装を断る、レジ袋を断るなど

リデュース【減量する】

Reduce

ごみの容量を減らしたり、ごみそのものの全体量を減らす運動。詰替え商品を使う、マイバッグの利用など

リユース【再使用する】

Reuse

使い終わった物を、そのままの形で再使用する運動。フリーマーケット・びんのリユースなど

リサイクル【再生利用する】

Recycle

古紙・空き缶などを回収し、再生利用する運動。使い終わったトレイ・たまごのモールドバック・仕分け袋のリサイクルなど



やさしいのは せっけん!

人類が初めてせっけんと出会ったのは3000年も昔のことでした。環境にやさしく、自然の生態系を壊さないことは、長い歴史が物語っています。グリーンコープではせっけんの利用を前身生協の時代から20年以上すすめてきました。

今年度の「シャボン玉月間応援セミナー」がグリーンコープ共同組織委員会主催で開催されました。また5月29～30日の「2010 シャボン玉フォーラム in 重茂」の報告、(株)地の塩社のせっけんづくりへのこだわりを紹介します。

シャボン玉月間 応援セミナー 3月18日 福岡市

グリーンコープ生協 くまもと



「赤ちゃんすくすく個性」を利用して、組合員を対象に「せっけんモニター」に取り組みました。また、内部向けのアンケートにも取り組み、気軽に応じてもらえるように内容をチャート式にするなどの工夫をしました。

セミナーではペープサートを使った劇で、せっけんの正しい知識と使い方を披露しました。せっけんマンに扮した演出では方言を使った台詞が会場を盛り上げました。

グリーンコープ がごしま生協



福祉ワーカーズを対象にせっけんアンケートに取り組みました。アンケートの内容を分かりやすく伝えるせっけん学習会を行いました。

粉せっけんをとろとろに溶かした「とろとろせっけん」で換気扇がきれいになるようすをセミナー会場で実演しました。

グリーンコープ生協 おおいた



軟水地域と硬水地域の泡立ちの違いを比較する実験を実演しました。各地域の水質によって泡立ちが変わることから、せっけんの分量を調整する必要があると説明しました。

また、まど・みちおさん作詞の「せっけんさん」をグリーンコープ風に替え歌にし、会場で披露しました。

2008年度から広く組合員にせっけんの利用をすすめるために、シャボン玉月間を7月と10月の年2回設定しています。2010年度のシャボン玉月間応援セミナーが開催され、各単協から121人の組合員が参加しました。

せっけんの利用をできるだけ多くの組合員に、なかでも新しく加入した若い世代に広めることをテーマに、単協の2009年度の取り組みを資料で紹介しました。その中から、ふくおか・さが・くまもと・かごしま・おおいたの5つの単協が、実演などをまじえながら報告しました。

共同体組織委員会からは改訂した「やっぱり! せっけんー使いこなしハンドブック」を紹介し、せっけんの使いこなし方についてアピールしました。



各単協が一堂に集まり、たくさんの仲間が頑張っているようすや取り組みを共有する場となりました。単協の取り組みを参考にしながら2010年度もシャボン玉月間を中心に、共同体全体で力を合わせてせっけんの取り組みをすすめていくことが確認されました。

グリーンコープ生協 ふくおか



支部・地域・店舗では、食べものの委員会での学習を基本にしながら、それぞれ工夫して地域委員にせっけんのよさや使いこなし方を伝えていきます。

セミナーでは独自の広報チラシ「あわあわ通信」を年6回発行した支部、取り組みの中で出会った組合員に使いこなし方を直接伝えた地域、また、レジ横などに設置したせっけんおすすすめコーナーで楽しく彩られたポップを使い、せっけん商品をアピールしている店舗のようすなどが報告されました。

グリーンコープ生協 さが



せっけんが大好きな組合員を募集し、せっけんプロジェクトを立ち上げました。2歳未満の赤ちゃんを持つ組合員を対象にした「赤ちゃんせっけん」の取り組みを行い、有料モニターや、せっけん学習会への参加につなげました。

セミナーでは、グリーンコープの歯みがき剤を使った、安心・安全を組合員に実感してもらった取り組みについて寸劇での紹介がありました。

森・川・海をつなぐ循環社会

基調報告

「私たちの合成洗剤回収運動」

を行ってきました。地区内の店にせっけんを配置、毎月組合員に声かけし、香典返しにもせっけんを贈り、



置されている大きな看板

7月は
シャボン玉月間

人にも 環境にも やっぱりせ

せっけんメーカー
(株)地の塩社

こだわりが 歴史を培ってきた



田口さん(左)と従業員の方たち

グリーンコープの前身生協時代から共にせっけん運動をすすめてきた地の塩社は、「本当に大切なものを育てながら売る」という信念の下、環境にも、人にもやさしいものづくりを続けてきました。代表取締役の田口淳さんを訪ね、話を聞きました。



グリーンコープで取り扱っている地の塩社の商品

豊かな水と緑に恵まれた熊本県山鹿市に、地の塩社はある。創業者である田口さんの父親は合成化学メーカーの研究員で、一・倍化学物質の恐ろしさを知っていた。「水環境を守る仕事をはじめよう！」と勤めていた会社を退職。1975年、夫婦で地の塩社を設立した。社名の「地の塩」は、新約聖書の言葉から引用。「塩は人々の生活に欠かせないもの、見えないところで人々の生活に役立ちたい」という想いが込められている。

当初は廃油を原料にしたリサイクル粉せっけんを手作業で作る傍ら、試行錯誤を重ねながら、各種のせっけん開発に取り組み、固形・液体せっけんや、安全な化粧用品など、商品を徐々に増やしていった。「父は、環境や人にやさしく、中身に嘘がないものを作ることにこだわっていました」と田口さんは父親の背中に学んだことを話す。1979年、販路を求めて奔走するなか、当時せっけんメーカーを探していたグリーンコープの前身生協と出会う。グリーンコープの拡大と共に地の塩社も躍進していった。1994年、父親が他界したことで行き詰まった経営を、田口さん自身が研究開発から経営に至るまで一から勉強し、再建へと導いていった。

グリーンコープとの取引がはじまってから現在までに開発した50種類以上ある商品のほとんどが、組合員の「あったらいいな」という声や、「ここを工夫して欲しい」という要望から生まれたものばかり。なかでも「おふろのしゃぼん無香料」は開発から検討、商品化するまで全て田口さんが窓口となつて、グリーンコープと一緒に作りあげた商品だ。酸化防止剤(エデト酸塩など)を使用せずに無添加で作るためには、天然のよい原料で、適切な配合割合を導きだすために何度も試作を重ねた。生産過程でも徹底した品質管理を行い、包材を酸化しにくいものに変えるなど、すべてにおいて妥協せずにこだわりを貫いてきた。だからこそ開発以来18年間組合員に利用し続けてもらえるロングセラー商品となった。

2010
シャボン玉フォーラム
in 重茂
5月29日・30日



基調報告に先立って行われた、重茂漁協女性部による寸劇。海の恵みを大切にし、「重茂の海を守り、せっけんを使い続けて、海の生き物を守ってアピールした

今回の会場は、岩手県宮古市の重茂半島にある重茂漁協。「生産地」としては初めての開催です。「合成洗剤追放運動」、「原生林・十二神山千古の森を守る運動」、「六ヶ所核燃料再処理反対運動」などを通して森・川・海を守る取り組みを行っています。その活動を共有し未来に向けてメッセージを発信しようと呼びかけられ、全国のせっけん利用を推進する団体から348人が集まりました。基調報告と第2分科会のように紹介します。

開会式では、2009年度せっけんの利用が伸びたグリーンコープ生協おおさか、おかやま、ひろしま、おおいた、みやぎを含む13団体の表彰も行われました。



漁協女性部部長
盛合 敏子さん

貧しい漁村だった重茂。戦後、豊かな漁村づくりをめざして生活改善に取り組みました。その中で合成洗剤が海を汚すと知り、「合成洗剤を追放し石けんを使うことを漁協として決議、その決意を大きな看板にして、地区内4カ所に設置しました。重茂では昔から「魚は山に上がってくる」と言われ、盛合さん自身も父親から「木を一本切ったら2本植えなさい」と教えられました。森が海につながっていることを知っていた先人たちの思いを継ぎ、海を守るために、漁協を挙げてさまざまなせっけんの取り組み

第2分科会

「もう一度見直そう
石けん運動の原点」
自分の流した排水に
責任を持つために

科学的な視点で合成洗剤の水への影響を訴えた故坂下栄さんの活動を紹介。その上で「森から海につながる水の再生について語りあい、せっけん運動を地域に持ち帰ろう」をテーマに、グリーンコープ生協おおいた、生活クラブ生協埼玉、岩手県紫波町のせっけんの取り組みを報告、6つの座談会で意見交換しました。おおいたでは「せっけん

科学的な視点で合成洗剤の水への影響を訴えた故坂下栄さんの活動を紹介。その上で「森から海につながる水の再生について語りあい、せっけん運動を地域に持ち帰ろう」をテーマに、グリーンコープ生協おおいた、生活クラブ生協埼玉、岩手県紫波町のせっけんの取り組みを報告、6つの座談会で意見交換しました。おおいたでは「せっけん

学習会1時間プログラム」で、地区委員自身が合成洗剤との違い、汚れが落ちるしくみなどを学び、地区での活動に生かしています。組織委員長の矢野絵理さんは「せっけんだけでなく、いろいろなことを学ばなければいけないと押し付けられるのではなく、利用者の目線で自然にやさしいせっけんのよさを伝え、利用を続けてもらえるよう活動しています」と話しました。



地区内4箇所に設置

な自己改革で未来に備え、 連帯の力で りをすすめていきます

2010年6月16日、グリーンコープ
共同体第四期通常総会とグリーンコープ連
合第十八期通常総会が福岡市で開催され、
約400人の組合員、職員が参加しました。
2009年度総括と2010年度方針が提
案され、真摯な検討、質疑応答の結果、す
べての議案が満場一致で採択されました。
併せて、宮崎県での口蹄疫発生を受け、特
別決議「口蹄疫による危機に対し、多くの
人で助けあって乗り越えていきましょう」
も採択しました。



第一号議案を提案する
グリーンコープ共同体
専務理事 東原 晃一郎さん

私たちの生命を守るために、
食べものの「安心」「安全」
そして「安定」の確立に向
けて、できることを一つひ
とつくり組んできました。

食べものの運動の歩みとし
て、「安心」「安全」な食べ
ものを守り抜いていくこと
の条件づくりを普遍化して、
「安定」したものにすること
に取り組んできました。
産直畜産物では、産直豚
肉、産直鶏肉の利用が厳し
くなる中、生産者・メーカ
ーと協力し、組合員と共に
利用拡大に取り組みました。

未曾有の社会経済状況に対
してグリーンコープの強化
にチャレンジしました。

組織拡大・供給拡大は、
経営強化の大きな柱です。
2009年度の組合員の仲
間づくりは2008年度に
引き続き健闘しましたが、
組合員一人当たりの利用高
は93%まで低下し、5年ぶ
りに前年を下回る事業高と
なりました。2010年度
は各単協の組合員拡大を基
本にすすめることとなりま
した。

まだしばらく続く未曾有
の不況を乗り越えていくた
め、事業拡大に総力を注ぐ
ことができるよう今よりも
少しでも合理化し、改革・
改善することが求められて

グリーンコープ運動の進展とこれから

また、国産農産物の安定
確保をめざしました。醤油
の原料大豆をすべて「国産
丸大豆」としたことは、大
きな取り組みでした。豆
腐・揚げ類用の原料大豆を
「複数年契約」としたこと
で、生産者は生活の安定を
実現し、組合員は安全な大
豆を安定的に利用すること
ができるようになりました。
さらに、これまでほぼ外
国に依存していた畜産飼料
を国産に替えていく取り組
みをしています。

「食べもの」と「農業・
環境」が共生する「フード
マイレージ・プロジェクト」
の取り組みは、グリーンコ
ープの組合員が自らの生
活・生き方をおして実践
し、その規模が一人ひとり
では想像できないくらい大
きな規模と価値になってい

います。連合・単協のコス
ト圧縮をさらにすすめてい
きます。これにより、単協・
デポにおいて、組合員拡大
と利用拡大に携われるよう
にし、各単協が「事業拡大
総動員体制」を作ること
に向かいつつあります。

また、お取引先に向けて
「すべての取引先にすべて
の商品の取り扱いと提案を
オープンにし、改革改善に
頑張る取引先が事業を拡大
していけるようにする」こ
とに取り組みしました。お取
引先から商品改善の提案が
届きはじめ、多くの商品が
「みんなで利用価格」とし
て登場しています。お取引
先とはより良い商品の開
発・改善を共に取り組み、
グリーンコープの「食べも

ることを、多くの組合員が
実感できます。この取り組
みも、食料自給率を上げ、
国内の農業を守り発展させ
ることにつながります。

これからも、生産者、メ
ーカーと共に、食べものの
こだわりと国産化を追求し
ていきます。

「第二地域創出」というテ
ーマを私たち自身の課題と
して考え、その具体化がは
じまっています。

高齢者福祉や子育て応援
など、「地域における人と人
とのつながりを再構築し、
地域を再生し、すべての人
が安心して地域で暮らして
いけるようにしていく」と
いう理念です。すすめているグ
リーンコープの地域福祉の
一環として、生活再生事業
や抱機館の取り組みがあり

「運動のパートナー」とし
て関係しています。
グリーンコープ内（共同購
入・店舗ワークス）の位置
づけと主体の強化に向けて
能動的な動きを開始しまし

グリーンコープ運動を包
摂しながらグリーンコープ
事業を推進していく私たち
にとって、組合員・組合員
事務局・職員事務局の三者
に加えて、ワークスの存
在はなくてはならないもの
になっています。共同購入・
店舗ワークスが真にグリー
ンコープの主体となつて
いけるよう、各単協で真剣
な検討と実践をはじめまし
た。今後さらに共同購入・
店舗ワークスを大胆に生

グリーンコープ連帯の 進展とこれから

「組合員主権」を貫き通す
グリーンコープになってい
くことが、共同体の根幹の
テーマです。

組合員主権を実践する柱
の一つとして、「組合員総
会」の開催があります。グ
リーンコープという財産を
どれだけ地域組合員のもの
としていけるか、これは組
合員にとつての永遠の一番
大切なテーマです。共同体
の設立から3年間、全単協
での実施を実現させるため
に頑張ってきました。20
10年度は11の単協で実施
することができました。残
り3単協での実施に向けて、
今後組合員活動の内実と、
それを行い支える組織のあ
り方について、ていねいに
見つめていきます。

アジア民衆基金の設立は、
連帯が内に開かれるととも
に、連帯が外に開かれてい
くことの大切さをも実感で
きる事柄でした。

それまで点と点としてつ
ながることができていなか
った民衆取引の当事者であ
ったフィリピン・ネグロス、
インドネシア、東ティモ
ール、パレスチナ、パキスタ
ン、韓国、日本の人々が、
お互いにネットワークを組
んでいきます。そして「金
融」を自主的・主体的に融
通していくしくみを生み出
していくため、「アジア民衆
基金」が設立されました。
内へ外へとたくさんの人々
が作っていくこの基金を、
大切に育んでいきたいと考
えます。

時代と状況を見据え、
グリーンコープの運動、
事業、連帯をさらに
より深く結びつけ、
結実させていきます。

2008年からの金融危機
にともなう社会経済の破綻と
雇用崩壊という状況は、徐々
に回復に向かいつつあります。
しかし、次に大きな危機が世
界を襲う時、日米欧各国も金
融機関も、財政破綻しかねな
い状況にあります。

社会のセーフティネットが
今こそ問われているその一
方で、現状では救済の手が差
し伸べられていない人々も多
くいます。だからこそ、グリー
ンコープは組合員の生活を支
え、働く職員やワークスの
雇用を守り、社会の助けあい
と支えあいの大きな力となれ
るようにと、強く認識をして
きました。

そうした厳しい時代に全力
で備えるという強固な意志を
もって、私たちは私たちの歴
史をつくってきました。「な
ぜ『グリーンコープ』になっ
たのか」にはじまり、「グリー
ンコープ共同体」を設立し
たこと」まで、激動の時代に
備え、取りうる最善の足取り
を持つて歩んできたと言えま
す。それは、これからも変わ
ることは決してありません。
私たちが行ってきたことは、
行おうとしているグリーンコ
ープ運動とグリーンコープ連
帯とグリーンコープ事業とが、
関わる一人ひとり（組合員、
組合員事務局、ワークス、
職員）の心に結びつき、育ま
れていくように、そのような
1年を来年度にまた総括でき
るよう頑張っていきたいと
考えます。



2010年6月16日

グリーンコープ共同体第四期通常総会
グリーンコープ連合第十八期通常総会

グリーンコープは懸命 協同と 豊かな地域づく



商品おすすめ委員長
恵藤 みさきさん

ー・生産者に出
会った感動を伝
え商品をすすめ
ていく思いを深
めました。

委員会の名称を変更して1年、利用普
及の委員会としての役割が一段と鮮明に
なりました。毎回、単協の取り組みを臨
場感あふれる報告で共有化。また、海水
塩なぎさの菱塩視察交流など多くのメー
カー、生産者を視察したり、美瑛町小麦
生産者の訪問などを受けて交流。メーカ



商品検討委員長
手島 真理子さん

の南大東島を視
察・確認するな
ど、商品をより
身近なものに
しました。

オールグリーンコープの委員会として
単協の商品開発で生み出された商品など
の一つひとつをオールグリーンコープの
ものにしていく役割を担っています。2
009年度は国産丸大豆の醤油メーカー
のすべてを視察し、組合員の視点で製造
工程を確認。また、かぼちやの新規産地

グリーンコープ共同体 委員会報告



福祉委員長
松尾 由紀さん

に意見交換しま
した。

グリーンコープの福祉の理念を学ぶ学
習会、福祉活動組合員基金やワーカーズ
学習会などを実施し、自信をもって福祉
について語る言葉を得ることができまし
た。また、抱樸館下関や第2宅老所より
あいなどを視察することで、地域福祉へ
の理解をすすめました。各単協の進捗状



組織委員長
大橋 由美子さん

年度は袋to袋リ
サイクルにも積
極的に取り組
みます。

せつけん、環境、平和、ネグロスとの
連帯などグリーンコープ運動の根幹をな
すテーマについて取り組んでいます。2
009年度は、新しい組合員に向けてわ
かりやすく伝えるために、グリーンコー
プ4Rチラシを作成したり、せつけんハ
ンドブックをリニューアルするなどしま



共同体第四期通常総会スローガン

食べものと環境を育み、「助けあい、支えあう」生活協
同組合として、より地域の中で組合員や市民が信頼を託
しあえるグリーンコープへと向かっていきましょう。

グリーンコープの食べもの運動として、「安心」「安
全」な食べものを、「安定」して確保すること、そして
多くの組合員の利用につながるように、できることを一
つひとつ取り組んでいきましょう。

仲間づくりの輪を全力で広げ、組合員同士のコミュニケ
ーションを創り出し、「いのち・自然・暮らし」を守る
グリーンコープ運動と事業をさらに推進させましょう。

協同していく地域と社会づくりに向けて、「抱樸館福
岡」や生活再生事業、家計とくらしの応援活動、子育て
応援など、助けあいの運動と事業を社会福祉法人グリー
ンコープそしてワーカーズと共にすすめていきましょう。

全国のネットワークに連帯し、遺伝子組み換えや原発、
地球温暖化などの社会的な問題に、生命を根幹にすえて
取り組み、グリーンコープのできるところから解決して
いきましょう。

民衆交易や互恵のためのアジア民衆基金などの取り組み
を通して連帯・交流することで、「南と北」「北と北」
の共生・連帯をさらにすすめていきましょう。

グリーンコープ共同体設立の願いを実現していくため
に、グリーンコープ運動をすすめる組合員組織と組合員
事務局、職員事務局そしてワーカーズそれぞれの主体の
強化をすすめていきましょう。

共同体総会議案採決の結果

代議員 194人	反対	保留	賛成	代議員 194人	反対	保留	賛成
第一号議案 2009年度活動報告承認の件	0	0	多数	第四号議案 2010年度事業計画・予算 決定の件	0	0	多数
第二号議案 2009年度決算報告承認の件 (監査報告を含む)	0	0	多数	第五号議案 定款及び規約一部変更の件	0	0	多数
第三号議案 2010年度活動方針決定の件	0	0	多数	第六号議案 役員補充選任の件	0	0	多数

補充選出された役員

理事 全体区	松尾 由紀 グリーンコープ生協ふくおか理事	理事 地域区	城戸 充博 グリーンコープ生協ふくおか常務理事
理事 全体区	手島真理子 グリーンコープ生協くまもと理事	理事 地域区	中島 克哉 グリーンコープ生協ふくおか常務理事
理事 全体区	伊藤 英穂 グリーンコープやまぐち生協	理事 地域区	田中 豊実 グリーンコープ生協ふくおか常務理事
理事 全体区	西村 茂樹 生協連合会グリーンコープ連合	理事 地域区	野中 雅則 グリーンコープ生協さが専務理事
理事 地域区	福嶋 里美 グリーンコープ生協さが副理事長	理事 地域区	西村 大輔 グリーンコープかごしま生協専務理事
理事 地域区	前田 博子 グリーンコープ生協くまもと副理事長	監査 全体区	松井 啓子 グリーンコープやまぐち生協組合員事務局長
理事 地域区	赤星 聖美 グリーンコープ生協くまもと副理事長	退任される理事の方々 西本 幸子 グリーンコープ生協ふくおか 井上 潔子 グリーンコープ生協さが 横 慶子 グリーンコープ生協ひろしま 谷川 大輔 グリーンコープ生協ふくおか	
理事 地域区	牧 幸子 グリーンコープ生協くまもと副理事長		
理事 地域区	北島 修 グリーンコープ生協ひろしま専務理事		
理事 地域区			

連合総会議案採決の結果

代議員 187人	反対	保留	賛成	代議員 187人	反対	保留	賛成
第一号議案 2009年度活動報告承認の件	0	0	多数	第七号議案 役員定数の変更について	0	0	多数
第二号議案 2009年度決算報告承認の件 (監 査報告を含む)	0	0	多数	第八号議案 定款及び諸規約の一部変更と公認 会計士監査規約制定の件	0	0	多数
第三号議案 2010年度事業計画・予算決定の 件	0	0	多数	第九号議案 監査法人選任の件	0	0	多数
第四号議案 グリーンコープ共済生活協同組合 連合会 (仮称) への加入承認の件	0	0	多数	第十号議案 役員補充選任の件	0	0	多数
第五号議案 グリーンコープ共済生活協同組合 連合会 (仮称) への出資金について	0	0	多数	第十一号議案 役員報酬決定の件	0	0	多数
第六号議案 こども共済事業規約の一部変更の 件	0	0	多数				

連合業務の合理化に徹底的に取り組みました

2009年度、グリー
ンコープ連合は、未曾有の経
済危機に備え、その克服に
挑戦し、生き残っていくた
めの実践に取り組みました。
物流部門では、福岡セン
ターの新設により、より多
くの商品の取り扱いを可能
にしました。そのコストの
増加を、効率・生産性・思
考力・機動力を向上させる
ことで抑えることができました。
連合事務局のペーパ
ーレス・電子化をすすめ、
書庫を減らし執務スペース
を狭くして家賃を削減。また、
カタログGREENの写真
撮影を自前化し経費を削減
しました。このような取り
組みの結果、供給高が前年
比96%と予算を大きく下回
った中でも、ほぼ予算に近
い剰余を出し、さらに、関
西地方や中国地方の拡大に
対応するための新広島物流
センターの新設計画に着手
することができました。
2010年度は供給高前
年比97%であっても剰余を
生み出せる経営構造をつく
りだします。その上で商品
の改善と価格の値下げ、カ
タログGREENの改善な
どに取り組めます。この秋、
家賃負担を下げるための事
務所移転をはじめとして、
2010年度も連合事務局
はありとあらゆる経費を削
減します。そして、ミスと
事故を減らすこと・無くす
ることが最大の業務の合理化
であることを基本に、業務
の高度化(正確化・効率化)
を一層すすめます。

特別決議

口蹄疫による危機に対し、 多くの人で助けあって乗り越えていきましょう!

宮崎県で発生した口蹄疫、グリーンコープの産直豚の生産者である宮崎県の綾豚会の農場でも殺処分されたり、出荷が制限されたりと大きな被害に見舞われています。危機的な状況の生産者を応援するための特別決議を、2010年6月16日のグリーンコープ共同体第四期通常総会で採択しました。全文を掲載します。

2010年4月9日、宮崎県都農町の繁殖牛農家を往診した獣医師が牛1頭の口腔内がただれているのを確認し、4月20日、宮崎県が「牛3頭が口蹄疫に感染した疑いがある」と発表してから2ヵ月が経過しました。宮崎県の各地では、町の中に石灰が撒かれ、幹線道路には「消毒ポイント」が設置され、24時間体制で通過する車の消毒が行われています。宮崎県では、「『非常事態宣言』家畜伝染病『口蹄疫』の拡大を県民一丸となって食い止めましょう!」という呼びかけがされています。

これまでに殺処分の対象となった牛・豚・山羊の家畜の累計頭数は、5月24日時点で145,358頭に上っています。そして、国が殺処分の対象となっている家畜に加えて、口蹄疫に感染していない家畜も対象に「ワクチン接種」を決定した結果、殺処分の対象となる家畜は290,358頭になりました。5月20日時点で殺処分の対象となっていた家畜130,258頭に対し、殺処分された家畜は55.9%です。今後、すべての殺処分が完了して家畜が1頭も存在しないようになり、その後、堆肥や排出物の処理、農場をはじめとする畜産環境や町の防疫（消毒）を経て、「終息宣言」が出されることになります。従って、「口蹄疫問題」が解決するまでには相当の時間を要することになります。

口蹄疫の感染が拡がっている地域の畜産農家の皆さんは、感染への恐怖や殺処分の精神的苦痛の中にいます。宮崎日日新聞では、現地の苦しみと痛みが次のように報道されています。「注射を打たれた豚は鳴くんです。あんな鳴き声を聞くのは初めてで、胸が詰まった」「処分されると分かって飼いつけている。今は餌を食べられるだけ食べさせてあげたい。味わったことのない気持ちだ」という悲痛な声。ある酪農農家は、毎朝700キロもの牛乳を尿だめに捨てるという屈辱的な作業に耐え続けられました。家族同然の牛を、死の間際に乳房炎で苦しめるわけにはいかなかったからです。ある養豚農家は感染した後、殺処分がはじまるまでの数日間、水疱が破れ、乳房が真っ黒になりながら子豚に乳を飲ませる母豚が息絶えるまで面倒を見続けました。またある養豚農家は、感染した豚はとにかくのどが渇くらしく、「少しでも楽にしてやり、喜ぶ顔がみたい」と、水ではなくスポーツ飲料を与え、殺処分を行う獣医師に「できるだけ怖がらないように殺してください」と頼みました。子どもたちは、ある肉用牛農家では、感染予防のために毎日消毒作業をする父親に、中学生の女の子が登校前に「学校に行っていいたい?」、学校から帰ってくると「大丈夫やった?」と父親と家業を案じています。ある養豚農家では「お父さん、ごはん食べている?私、大学辞めようか」と、福岡県内の大学に入学したばかりの娘が電話してきました。

口蹄疫は、長い年月をかけ、たゆまぬ努力を重ねて農場を築き、手塩にかけて育ててきた家畜の命を殺処分というかたちで奪い、家畜の命を断って私たちの命をつないでいく畜産を、一時、遮断してしまいます。

私たちの産直生産者である綾豚会の6人のメンバーでは、遠藤さん（川南町）が口蹄疫が発生した農場から半径10km圏内の「移動制限区域内」に位置し、母豚410頭と子豚や肉豚4,782頭が全て殺処分となりました。また、今村さん（国富町）は半径20km圏内の「搬出制限区域」に位置し、母豚110頭と子豚や肉豚1,290頭のすべてを「早期出荷」することになり、一旦、農場から豚が1頭もいなくなります。綾豚会の押田会長は憔悴しきった表情で心配され、江島さんは「もはや、川南町はゴースタウンのようになるのではないかと」本当に落ち込んで心配された一言を漏らすように言われました。

受けて、私たちは、2010年5月24日に開催した「グリーンコープ共同体拡大大事長会」において、緊急に「口蹄疫問題」に対する私たちの対応について検討しました。

私たちは、口蹄疫が発生してから現在までの「口蹄疫問題」の被害の甚大さと被害に遭われた畜産農家や地域の皆さんの痛みの大きさを強く認識しました。と同時に、「口蹄疫問題」が長期化し、その被害と痛みは今後更に大きく深刻になっていくのだと認識しました。

例えば、産直豚の生産者の皆さんが、すべての豚がいなくなり、命を断たれた豚を弔い、深く大きく傷ついたところから、農場の施設や設備を消毒し、母豚を導入することから立ち上がっていくための精神的、肉体的、そして、経済的負担ははかり知れないほど大きなものだと思うからです。そして、その後も、母豚を導入して2ヵ月後に種付けし、4ヵ月後に生まれる子豚を7ヵ月間肥育し、13ヵ月後によく肉豚を



綾豚会の小豚たち

出荷して収入を得るまで、まったく収入がない中で労働し、餌代などの経費を負担して養豚を再生していかなければならないのです。それでもなお、「もう一度、頑張ろう」という気持ちになること、そして、「もう一度、頑張ろう」という気持ちを持った後も、厳しい現実と直面する「再生への道のり」は本当に大変なことだと思います。

私たちは、「安心」「安全」な「食べもの」を私たちが食べることができるためには、「安心」「安全」な「食べもの」を生産して下さる生産者の皆さんがいるからであるということをよくよく分かっているので、生産者の皆さんと助けあいながら「継続再生可能な産直関係」を築いてきました。しかし、口蹄疫によって、「継続再生産」が遮断されてしまいます。畜産は、「継続」そのものが大変な状況の中におかれています。加えて、これまでに築いてきたことが白紙にされ、「ゼロから」というよりも、「マイナスからの再生」を余儀なくされるのです。従って、私たちのために「安心」「安全」な産直豚を生産して下さってきた生産者の皆さんが「継続しよう」と思われても、継続できなくなるかもしれない状況に追い込まれているということです。私たちは、「口蹄疫問題」は、生産者の皆さんと私たちも含めたみんなにとって「口蹄疫による危機」だと強く実感しました。

私たちは、拡大大事長会において、「産直豚を食べ続けていくことが大切」「一刻も早く私たちにできることをしたい」「生産者を支えたい」「この大変さと痛みを多くの組合員に伝えたい」と討議し、一人でも多くの組合員と共に生産者の支援に取り組むことを決定しました。

私たちは、第一に、今できるありとあらゆることに取り組みます。

1. 全組合員を対象に「緊急カンパ」に取り組みます。
2. 組合員から生産者への「応援メッセージ」を送ります。
3. 「共生の時代」号外を発行し、すべての組合員に知らせます。
4. グリーンコープから緊急融資を行います。

第二に、「口蹄疫による危機」の被害が甚大で長期化することに対して、「今できることをする」という域を超えて「長期的にこれからしなければならないことを、いかにできるように取り組んで支援するのか」と考えて取り組みます。口蹄疫の被害に遭われた生産者の皆さんが、もう一度、畜産を再生することができるために私たちがすべきことを考えて取り組みます。私たちは、生産者の皆さんのお話を聴いたり、相談したりすることができます。その中に、私たちがこれから取り組むことが見えると考えます。従って、今後、社会的状況と私たちの主体的状況を見据えて、現地と情報交換と相談を綿密に行いながら、グリーンコープとして更に踏み込んで支援していくことを検討・判断していきます。更なる経済的支援、グリーンコープの全ての生産者や取引先の皆さんにも支援を呼びかけて取り組むことも考えます。

口蹄疫の被害に遭われて傷つき、苦しんでいる畜産農家の皆さんは、苦しみに負けることなく闘いながら、自分たちだけではなく他の同業の仲間や地域の人のことを心配しながら、かつ、支えあって、励ましあって、助けあって、この「口蹄疫による危機」を乗り越えられようとしておられます。他の農場の殺処分をお手伝いしたり、ワクチン接種については、「みんなのために、口蹄疫の感染を拡げないため、抑えるために」という気持ちで断腸の思いで感染していない自らの家畜への接種を受け入れられています。グリーンコープの産直生産者である綾豚会の遠藤さんは全頭殺処分となる中で、地元農協の養豚部会長としてみんなのためにも奮闘されています。

口蹄疫による危機は、生産者の皆さんと私たちも含めた「みんな」の危機です。この危機に対して、私たちも一人でも多くの人と共にみんなで助けあって乗り越えていきましょう!

2010年6月16日
グリーンコープ共同体第四期通常総会
生活協同組合連合会グリーンコープ連合第十八期通常総会



▲学習会の様子



左から矢野桂吾さん、女性部会の森由美さん、西本勝美さん、日本ミルクコミュニティ八重樫毅さん、山本淳さん

「産直」「商品」学習会が開催され、各単協から商品の利用普及の取り組みをすすめていくために組合員など133人が学習しました。

今年度はグリーンコープ連合商品担当者からの「産直」「商品」についての説明に加え、青果・酪農生産者、びん牛乳メーカー(日本ミルクコミュニティ)の話を聞きました。学習会のように報告します。

「産直」「商品」学習会

主催：共同体商品おすすめ委員会
2010年4月12日 福岡市

グリーンコープ商品の「安心」「安全」を実感し 利用普及をすすめましょう！

グリーンコープ商品の「安心」「安全」の仕組み

グリーンコープ商品担当者が「産直」「商品」について説明。グリーンコープは、「生命を育む食べものを子どもたちに―経済効率優先の商品を食べるものに戻す運動―」を中心にすえ、さまざまな取り組みをすすめてきた。取り扱うすべての商品に、こだわりに基づいた検討と点検を行っている。そのうち、グリーンコープの「産直」には大きく4つの特長がある。

①その生産物を誰が作っているのか明らかである
②その生産物がどのように生産されているのか(栽培・飼育など)明らかである
③生産者とグリーンコープ(組合員)との交流ができる
④生産者の側から見ても産直提携が実感できる

大きな特長は④で、生産者と十分に話しあい、農業や畜産業が継続できる価格を設定。代金は直接生産者のもとに届く仕組みになっている。安定した経営が可能になり、グリーンコープの生産者には、後継者を育てる環境が整ってきている。グリーンコープでは生産物の栽培方法を「作物栽培計画書」で明確にしている。栽培内容や資材・農薬・肥料の種類や散布時期などが記載され、生産者とグリーンコープが毎年確認している。一方、「商品仕様書」は、商品の設計図のようなもので、原材料、製造工程図、包材への記載情報など商品に関する全ての情報が網羅されている。

これらに従って実際に生産、製造されているかを、目に見える形にしたのがグリーンコープ商品生産・製造認証システムだ。まず第一者監査を生産者やメーカー担当者自身が行う。約束どおり生産・製造しているかをグリーンコープへ報告する。その後グリーンコープが第二者監査を行う。自主確認が正しく行われているか、書類や現地を見て点検を実施。このシステムは、長い間培ってきた生産者・メーカーとの信頼関係の上で成り立つシステム。その確立によってグリーンコープ商品の「安心」「安全」の仕組みがより確かなものになっている。「グリーンコープの商品を自信を持ってすすめてください」と結んだ。

青果生産者の会会長の原田幸二さん(御岳会)は「毎日農作業から帰ってきて、家で作業記録をつけています。皆さんに食べてもらうものを、何をどうやって作っているのか提示するために大事なのは、作物栽培計画書について話した。副会長の松村和則さん(肥後七草会)からは2009

年からはじまった出前交流会について「今年度はできる限り出かけて行きたいと思っています。顔の見える関係が『安心』『安全』な食べものを作っていくという私たち生産者の元気の源となります」と今後について説明があった。

産直びん牛乳について

グリーンコープ商品担当者が日本の酪農の現状と産直びん牛乳の歩みを説明。グリーンコープでは2008年より、生産者を応援するための生産奨励金の取り組みをはじめた。2003年に建設された産直びん牛乳工場の設備の減価償却が終了し、今年3月からびん牛乳の値下げが実現。「この機会に利用普及に取り組みましょう」と呼びかけた。

きた32年間を振り返った。日本ミルクコミュニティの八重樫毅さんは、びん牛乳のこだわりの工程である72℃15秒のパスチャライズ殺菌などについて、モニターを使って説明した。「組合員みなさんに牛乳をおいしく飲んでいただくために徹底した温度管理、衛生管理を行っています」と生産現場の思いも伝えた。

商品おすすめ委員長藤原みさきさんは「産直びん牛乳はグリーンコープの食べ物の運動の象徴です。考え方、作られ方、これまでの歩みに思いを馳せていただき、この学習会で感じ取ったことを言葉にして他の組合員に語っていただければと思います」と学習会をしめくくった。



No.24

増え続ける行き場のない核のゴミ

原子力発電の脅威と言えば事故による放射能の影響を考えます。しかし、事故が起きなくても原発の稼働に伴うすべての段階で放射性のゴミが排出されています。また、燃料であるウランを燃やすことで核分裂生成物(死の灰)が否応なくでき、日本で原発が稼働しはじめてから今日までその量は広島原爆の100万発分を超えています。人類は死の灰を無毒化する技術は持っていません。放射性廃棄物を「高レベル」なもので100万年、「低レベル」なもので300年間地中に埋め管理するというのです。途方もない長い年月です。責任を放棄しているとしか言いようがありません。しかも、「高レベル放射性廃棄物」の最終処理場は決まっていなままです。核のゴミは行き場を失っています。この事は原発の大きな問題のひとつであると考えます。私たちはこれ以上核のゴミを、未来の子どもたちに押し付けることはできません。このように問題のある原発はもういりません。

出典:原子力発電で本当に私たちが知りたい120の基礎知識
私たちと原子力発電 小出裕章 広瀬隆 藤田祐幸
ブルサマルと核のゴミ (小出裕章さん講演会報告集)より

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿欄

言・い・た・い

私の好きな
グリーンコープ商品みんな大好き
産直わが家風
カフェミルク

中学1年生になる子どもは、スーパーにあるコーヒート牛乳が大好きで、1日コップ2杯は飲んでいました。主人が「毎日コーヒート牛乳ばかり飲んで!」と子どもに言うようになってからは、祖母にコーヒート牛乳を買ってもらって、父親にわからないようにしてまでコーヒート牛乳を飲んでいました。子どもが大好きなコーヒート牛乳をどうにかして飲ませてあげたいと思い、グリーンコープに加入しました。

グリーンコープの産直わが家風カフェミルクを飲みはじめてからは主人も飲みはじめて、わが家は1週間に5本も購入しています。グリーンコープのカフェミルクに出会えてよかったです!

グリーンコープ生協おいた 河野 智恵

投稿募集中

●私の好きなグリーンコープ商品
●400字程度 ●A4切 毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。
〒812-8561
福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp



世話人や利用者と天瀬さん（前列左から2人目）

大阪府豊中市の高台にある閑静な住宅地に、天瀬さんの自宅を開放した子ども文庫「Keiおばさんの本の部屋」はある。開庫して4年、本への思いが溢れるこの部屋には、本を仲立ちにした人と人のつながりが温かく育まれている。

代表の天瀬恵子さん（グリーンコープ生協おおさか組合員）と世話人のみなさんに文庫活動の醍醐味を聞いた。

Keiおばさんの本の部屋

いま地域を考える

No.203

本を仲立ちに 豊かに広がる人の輪

子ども文庫活動

かつて図書館などが整備されていなかった時代、子どもたちが本に触れることができた機会を作ろうと、家庭図書館活動が生まれた。全国で子ども文庫として活発に活動がはじまったのは、1960年代後半から1970年代にかけてだ。個人の家庭を開放した家庭文庫や公民館などの公共施設を利用。当時は一日に100人以上の子どもの来訪があったという。テレビの普及、塾や習い事、ゲーム、少子化の影響でだんだん少なくなってきたが、現在でも全国に3000以上あり、児童図書サービスの重要な拠点となっている。

「Keiおばさんの本の部屋」もその一つだ。

本に子育てを助けられて

天瀬さんが文庫活動に関



話題になった3冊

わるきつけは、長男の子育てを助けられたことが大きい。子どもが生まれたら、大好きな絵本をたくさん読んであげたいと思っていたが、長男は、天瀬さんの読み聞かせをきっかけに、絵本にも興味を示さない。そんな時友人に連れられていった小さな家庭文庫で、子育ての悩みなどを話すと、数冊の絵本を紹介された。長男はその絵本に吸い込まれるように夢中になり、以前は見向きもしなかった絵本にも興味を示すようになった。はじめての子育てで一生懸命になるあまり、子どもに自分の思いを押し付けていたことに気づき、肩の力を抜くことができた。

末の娘に「かあさん、わたしのこすき？」という絵本を読んでいると、側で聞いていた4年生の二男がポロポロ涙をこぼす。その頃、二男との関係に壁のようなものを感じていた天瀬さんは、「大好きだよ」と言って欲しい二男の気持ちを痛いほど感じた。その日から、毎日「ローワンと魔法の地図」を一章ずつ読み聞かせ、3年間続けた。それから、二男とは本が共通の話題となってコミュニケーションがとれるようになった。こうした経験が、文庫活動や読み聞かせボランティアなど、本に関わる活

動を現在まで続けている原動力となっている。

若いお母さんたちの居場所にも

地域文庫に世話人としても関わり、2003年から豊中市子ども文庫連絡会（豊子連）の活動へも参加。天瀬さんの子ども文庫開設への思いは募っていった。2007年に、長年の念願であった自宅での子ども文庫を開設した。6畳ほどの部屋に1000冊以上の蔵書（知人などからの寄付もある）と図書館の団体貸し出しを利用した100冊ほどの本が置かれている。絵本やファンタジー、小説、漫画、図鑑などなど。



「わあー、ぱんださんいっぱい」。絵本を楽しむ利用者親子

2010年5月の組合員数 404427人

(5/27現在)

リユース リサイクルデータ

2010年4月分

牛乳びん	リユースびん
回収本数 1,030,842本 回収率 100.4% (3月14日～4月17日回収分)	回収本数 184,554本 回収率 60.9%
トレー	モールドパック
回収重量 11,677kg 回収率 58.1%	回収重量 35,700kg 回収率 114.6%

フードマイレージ

2010年5月までに組合員の利用によってたまったのは

42,814,584.7
poco
CO₂に換算して4,281トン削減したことになります

アジア民衆基金

2010年5月までに組合員の利用によってたまったのは

9,218,036円

放射能汚染測定結果報告(199)

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

	検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計 ベクレル/kg
※	乾燥しいたけ	九州	ND	ND	ND
※	ホワイトソフトマーガリン	国内	ND	ND	ND
※	さばフィレ	ノルウェー	ND	ND	ND
※	純正ごま油	ナイジェリア、ブルキナファソ、ウガンダ、ミャンマー、パラグアイ	ND	ND	ND

2010年4月

世話人と利用者が やわらかにつながりあつて

「このみなさんは、とても適切なアドバイザー。よい本を選んでもらっています」、「子どもの方が天瀬さんと友だちになって、お互いにこの本は面白いよなど、情報交換しています。子どもに頼まれて私が借りて来ています」、「紹介された上橋菜穂子の守り人シリーズに親子で夢中になっています」、「ここに来ようになつて、子どもが本を読むようになったんです」と本を借りにきた利用者も口々に話す。世話人も「ここに来るとともにホッとします」「お世話に来てくれるのか、お話ししてもらっているのか、お話ししていい」と、薦めたい本や好きな本がみなの願いだ。

な絵本を手笑顔だ。リビングにつながる本の部屋は、世話人や利用者が互いに本を紹介したり、子育ての悩みを話したりとにぎやかだ。訪れる誰もがその雰囲気から金曜日であることから、学校に通う子どもたちの利用は多くはないが、親が代わって借りて来ることもある。学校の長期の休みには、近所の子や友人の子、世話人の子どもたちが、寝転んだり、座ったりして本を読んでいる姿がある。「それがとてもうれしい」とみな口を揃える。

「Keiおばさんの本の部屋」は、関わる一人ひとりのつながりの中で、誰もが肩の力を抜いて、自分らしくいられる場所になっている。

《訂正とお詫び》

※本誌6月号2面に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。(誤) おおいたの渡辺さん→(正) おおいたの渡部さん